ひきこもり支援センターほっとプラザについて

令和５年（２０２３年）１０月５日
埼玉県北本市議会健康福祉常任委員会　行政視察

東海市　市民福祉部　社会福祉課

（１）　事業概要について

東海市ひきこもり支援事業コンソーシアム

・市の委託事業（令和３年度から）
　市が主体性と責任を持って実施

・コンソーシアム構成員
　社会福祉法人　東海市社会福祉協議会
　ＮＰＯ法人　オレンジの会

⇩

社協３人、オレンジ３人
学生アルバイト５人（学習・生活支援）

ほっとプラザで行っている支援メニューについて

ほっとプラザの支援メニュー

・相談支援
本人・家族相談、アウトリーチ、ＳＮＳ

・居場所支援
フリースペース、女子会、運動プログラム、
就労準備支援、学習・生活支援、
利用者が考える自主イベント

・家族支援
家族会、家族交流会

居場所支援

・特色
自宅以外の安心して過ごせる場所で、他者との交流を通して緩やかに社会参加できるよう、様々なプログラムを用意している。
女子会、運動レクレーション、卓球、
自主（利用者が考える）イベント

・工夫
利用者が興味を持ったり、コミュニケーションが図れるようイベントを考えている。

学習・生活支援

・特色
勉強したいけど外出ができない、人が大勢いる場所に行くことに抵抗があるなど、メンタル面、生活面に支援が必要な生徒を対象にしている。

・工夫
大学生を活用し「ななめの関係」を作っている。
子ども食堂の空き時間を利用することで、食事の提供をしている。

就労準備支援

・特色
社会との関わりが希薄で、働きたいけれども今すぐに働くことは難しいという様な方に、就職活動のスタートラインに立つことを目標として、その方の状況に合った支援を段階的に実施している。

・工夫
職員が一緒に毎日内職活動やボランティア活動等を行うことで、生活リズムを作ることや他者との関係づくりから始めている。

家族会

・特色
　ひきこもり当事者を支えてきた家族自身も支援の対象者として、定期的な家族会を開催し、支える家族同士の意見交換や交流の場をつくっている。

・工夫
　大学教授や当事者グループのＮＰＯ法人などを招き、勉強会や家族同士の交流会をしている。

ほっとプラザの周知・広報活動について

広報活動

・市広報紙
　毎月１日号の各種相談先

・ホームページ

東海市ほっとプラザ	検索

・Ｘ（旧TWITTER）
　居場所でのイベント告知

・講演会
　理解・啓発

周知活動

・関係機関との連携
　包括支援センター
　基幹相談支援センター
　自立相談支援機関
　生活保護担当

・民生委員・児童委員協議会
　地区民協、勉強会

・中学校３年生への周知
　卒業前にチラシ配布

（２）　事業実施に至るまでの経緯について

平成18年までの東海市のひきこもり支援

・東海市
　業務として位置づけられていない
　関係機関は、県行政機関である保健所のみ

・社会福祉協議会（地域福祉サービスセンター）
　ひきこもりに関する相談はあるが、相談スキル、
　支援のための社会資源がない

⇩

社会福祉協議会からＮＰＯ法人オレンジの会に
相談員の派遣を依頼
平成１８年度～ひきこもり相談窓口（月１回）を設置

ひきこもり支援検討委員会

・平成19年度に設置、全5回の委員会を開催

・学識経験を有する者、NPO法人、保健所、
障害者支援センター、民生委員・児童委員

・学校教育課、青少年センター、子育て支援課、
保健福祉課

・先進地視察
神奈川県県民部青少年課及び青少年サポートプラザ
NPO法人ｱﾝｶﾞｰｼﾞｮﾏﾝ・よこすか(横須賀市)
NPO法人リロード(横浜市)
NPO法人フリースペースえん(川崎市)

東海市ひきこもり施策基本指針

ひきこもり支援検討委員会がまとめた報告書をもとに
平成20年3月に策定

⇩

ひきこもり支援の課題、支援体制の方向性を明文化

・相談できる場所及び自宅以外の居場所を提供する
・法的・制度的根拠が存在しないが取り組みが必要な
社会問題

平成２１年４月　ほっとプラザ開設

相談支援と居場所支援を常設化

家族会開催、サポーター養成

(3)　事業の成果について

事業効果

令和3年度の利用者数

実人数	89人
来所延べ人数	1,358人
1日平均利用者数	5.61人

令和４年度の利用者数

実人数	88人
来所延べ人数	2,436人
1日平均利用者数	10.07人

孤独・孤立などの不安を抱えている人は
まだまだいるのでは？

(4)　事業についての課題や今後の展望等について

課　題

・利用者の個々の状況、特徴、特性はさまざま

・長期間の支援となる

・専門的な知識とスキルが求められる

⇩

ニーズを感じること

今後に向けて

・ひきこもり支援
　本人とつながることが一つの解決
　「そのままでいいよ」全面受容

＝ほっとプラザとつながる。

⇩

世の中とつながりたい
中身の充実と広報
ニーズを感じる

ケース①

- 父死別後母娘ふたり暮らし。ゴミ屋敷。
- 支援者が入ろうとするにも母の強烈な恫喝？
  により入れず。本人もそのままが良い。
- ある日母が自宅前の道端で倒れていて救急搬送。
  ひきこもっていた娘だけ残された。

⇒支援会議をくり返し、娘の支援を話し合った。

⇩

週２回、ほっとプラザに通う

ケース②

- 通信制高校３年生
- 学校のレポート提出が課題
- 体調が不安定
- シャイ、自分から話しかけない
- 全教科２年半分の課題が残っていた

⇒親からの相談、ほっとプラザの学習・生活支援を利用

行った対応

- 提出する課題の量を一緒に確認
- 提出期限の確認

対応後

- 休まず来所
- 徐々に一人でも進められるように
- 体調も落ち着く

話を聴いてみると

- 何から手をつけていいかわからなかった
- 聞く人がいなかった
- 親に聞いても「わからない」と言う

無事に卒業！

- プライベートの相談もしてくれるようになり
  卒業後も学習・生活支援に通うようになりました
  今は進学するための資金を貯めています

ケースからの気づき

「相談相手が足りていない」

- 家族に話を聴いてみると
  自分が教えると喧嘩になってしまう
  子どもと離れる時間ができて自分にも余裕が出来た
  勉強以外の話をできるようになった

⇩

家族もしんどくなっていた

ほっとプラザ

「家族以外の大人に頼ることを練習する場所」

- 親戚、友人は近すぎて頼みにくい
- 第三者（意外と）程よい距離感

⇩

いつでも開かれた場所

ありがとうございました